

広島県赤十字有功会

— 会報 (第6号) —



インドネシア青少年 赤十字との交流を支援

本会は赤十字の支援事業として、広島・インドネシア青少年赤十字国際交流事業を支援しました。

この事業は、日本赤十字社広島県支部との共催で、平成二十二年十二月二十二日から二十七日にかけ、県内の青少年赤十字メンバー二名（高校生男女各一名）をインドネシアに派遣しました。メンバーは、インドネシア赤十字社



の各施設や活動を視察したあと、学校での交流や、ホームステイするなど現地の歴史・文化や生活習慣などにも触れ、相手国への理解と友好を深めることができました。

広島・インドネシア青少年赤十字国際交流事業に参加して

青少年赤十字メンバー代表 広島新任高等学校一年 餅川大地 田村菜欧

今回のインドネシア青少年赤十字との国際交流を通して気付いたことは、日本よりも赤十字の認知度が高く、小学生から社会人まで多くの人々が赤十字の活動に参加しているということです。ユースキャンプでは、老若男女問わず、二百人以上の人が参加し、竹とロープを使った担架の作り方や三角巾による包帯法を学び、いつでも非常事態に対応できるように訓練していました。

しかし、認知度が高いという背景には、まだ貧富の差が大きく、赤十字のボランティア活動に助けられている人が多いからなのかと、考えさせられる場面も多々ありました。

滞在中は、ユースメンバーのお宅にホームステイをさせていただき、三日間を共に過ごしました。ホームステイ先の家族は、私たちを本当の家族として迎えてくれ、帰国の日には家族みんな

の各施設や活動を視察したあと、学校での交流や、ホームステイするなど現地の歴史・文化や生活習慣などにも触れ、相手国への理解と友好を深めることができました。

なと別れを惜しみ涙を流しました。日本とは違う生活様式、文化、歴史、そして赤十字の活動に実際に触れることで、感じたこと、考えさせられたことをできるだけ多くの日本の青少年赤十字メンバーに伝えたいと思います。

このプログラムは、私たちが大きく成長させてくれました。この貴重な体験を生かし、日本の青少年赤十字がもっと活発になるように、これから頑張っていきたいです。



年頭のごあいさつ

広島県赤十字有功会
会長 宇田 誠

有功会の会員の皆様には、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年を振り返れば、年の初めに中南米ハイチ共和国を襲った大地震を皮切りにチリ地震、中国青海地震、パキスタンの大洪水など海外において大きな災害が相次ぎました。また国内では全国各地で大雨による災害が起り、県内でも各地で川の氾濫等により床上浸水などの被害が生じ、特に庄原市では土石流により住居が倒壊するなどの大きな被害を受けました。

このような暗い話題の多い中、二人の日本人化学者がノーベル化学賞を受賞、さらにはサッカーワールドカップ南アフリカ大会で、日本代表がベスト十六に入る快挙を達成するなど国民に勇気と希望をあたえてくれました。また欧米以外では初めて広島市でノーベル平和賞受賞者サミットが開催され、核兵器のない世界実現のための広島宣言が採択され世界に向けて発信されました。これからも広島から恒久平和を訴え続け、少しでも世界から戦争や紛争が無くなることを願いたいものです。

さて本会は、赤十字の支援団体として、赤十字精神の普及とその事業の伸展に貢献する活動を行っております。昨年は新規事業として十二月に青少年赤十字メンバーの国際理解・親善を目的とした、広島・インドネシア青少年赤十字国際交流事業への支援を行い、二名の高校生を派遣いたしました。

これもひとえに会員の皆様の赤十字運動ならびに本会の主旨へのご協力のたまものと厚く感謝しております。

これからも赤十字を支えるため、引き続き会員の皆様には、仲間づくり運動の推進にご協力いただき、支援の輪を広げていただくとともに、有功会の活動に layers of understanding and cooperation. Thank you for your support.

今年一年、会員の皆様のみならず、ご健勝とご多幸を祈念いたしまして新年の挨拶といたします。



平成二十二年

全国赤十字大会開催

平成二十二年五月十二日、明治神宮会館で日本赤十字社名誉総裁皇后陛下、同名誉副総裁の秋篠宮妃殿下、常陸宮妃殿下、高円宮妃殿下をお迎えして、「平成二十二年全国赤十字大会」が開催されました。全国から約二千人の赤十字関係者が参加し、広島県からは本会森本副会長をはじめ、有功章受章者や奉仕団委員長ら三十名が出席しました。

大会では、名誉総裁皇后陛下から、赤十字事業の推進に顕著な功績のあった方々の代表十三人に有功章が授与されました。

また、近衛忠輝社長は挨拶で国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）会長として大地震の起こったハイチを視察した体験を紹介。「記憶に新しい悲劇を教訓に、日本赤十字社はいざというときに人々を救うために存



在していることを改めて認識し、皆様と志を同じくして、共に歩んで参りたいと思います。」と決意を語りました。

大会第二部では、赤十字思想誕生百五十周年記念として宝塚歌劇団雪組が上演した「ソルフェリーノの夜明け」の出演者を招いてトークショーが行われ、上演中に感じた赤十字に対する想いや学んだことを語っていただきました。

会員動向（平成二十二年十二月末日現在）
〔個人〕七十六名 〔法人〕百七十社 〔計〕二百四十六会員
平成二十二年 新規会員紹介
（「入会いただき、ありがとうございます。」とございました。（敬称略・入会順））

個人（十一名）	林 隆	広島市西区	西田みどり	広島市中区
	石井 邦男	東広島市	田中寿美子	広島市佐伯区
	三浦 奨	府中市	森本 弘道	広島市西区
	藤本 勇	安芸郡府中町	奥田美代子	広島市南区
	横山 泉	廿日市市	中川 元	広島市中区
	西田 義孝	広島市中区		
法人（十九社）	福山青果株式会社	福山市		
	光和物産株式会社	福山市		
	アンテックス株式会社	尾道市		
	株式会社江波工作所	広島市南区		
	株式会社中国工業開発	竹原市		
	日本管洗工業株式会社	福山市		
	株式会社デルタプリント	広島市南区		
	株式会社早稲田自動車学園	広島市西区		
	お好みフーズ株式会社	広島市西区		
	株式会社ミヨシ	広島市中区		
	ブレイン株式会社	広島市西区		
	広島アルミニウム工業株式会社	広島市西区		
	医療法人社団森本医院	呉市		
	田中電機工業株式会社	広島市南区		
	ゼネラル建設株式会社	広島市西区		
	株式会社白光	広島市中区		
	三洋コーテック株式会社	広島市南区		
	松永開発株式会社	福山市		
	株式会社たくみ	広島市中区		

慶弔報告（敬称略・順不同）

平成22年（春・秋）叙勲・褒章受章者

- こころよりお慶び申し上げます。
- 旭日重光章
今中 亘 様（広島市安佐南区）
 - 瑞宝双光章
藤倉 敏光 様
（広島歌謡倶楽部会長・広島市南区）
 - 藍綬褒章
佐竹 利子 様
（株式会社サタケ代表・東広島市）

お悔み（ご逝去のご連絡により掲載 22年1月～12月）

謹んでご冥福をお祈りいたします。
森下 睦雄 様（広島市東区）

【寄稿のお願い】 広島県赤十字有功会会報は、会員の皆様と共につくる会報をめざしています。会員の皆様からのご寄稿をお願いいたします。俳句、短歌、詩、エッセー、旅行記、写真、絵などなど、ぜひ、お寄せください。また、ご意見、ご要望などお聞かせください。

広島県支部だより

ハイチ大地震
救援・復興事業に

県支部および広島赤十字・原爆病院から職員を派遣

昨年1月12日にカリブ海地域のハイチ共和国の首都ポルトープランスから南西に17キロの地点でマグニチュード7.0の大地震が発生し、死者30万人以上、200万人以上が被災するという大きな被害をもたらしました。

このような状況に対し日本赤十字社では、国際赤十字との協力のもと、6ヶ月にわたってポルトープランスとレオガンの2都市で、仮設診療所を開設し、被災者に対する治療のほかワクチン接種や衛生知識の普及、感染症予防のための活動を行いました。

広島県支部と広島赤十字・原爆病院では、これらの活動のため事務管理要員と薬剤師を約1ヶ月間派遣いたし

ました。

今もなお、多くの被災者が避難生活を送っており、10月中旬以降コレラが流行し2011年1月の時点で、死者は3千7百名を超え、18万人以上が感染するという深刻な事態に陥っています。

このため、コレラ患者に対する治療と、予防方法の普及や衛生環境の整備などの支援を継続して行っており、1月から広島赤十字・原爆病院からも事務職員を1名派遣しています。



赤十字活動資金にご協力をお願いします。

日本赤十字社では、国内の災害救護活動や国際赤十字の一員として海外における緊急支援や開発援助などの活動をはじめ、救急法等の普及事業、ボランティア活動の推進、青少年の育成などの活動を行っております。

これらの活動は、その趣旨にご賛同いただいた皆様からお寄せいただく社費（会費）や寄付金によって成り立っています。人々のいのちと健康や安全な暮らし、そして人が人間らしく生きる尊厳を守るための活動資金に、一層のご協力をお願いいたします。



赤十字活動資金へのご協力方法

地域でのご協力のほかに下記の方法でご協力いただけます。

- 銀行・郵便局からのお振込、口座振替によるご協力
- 企業の社会貢献活動としてのご協力 創立を記念してのご寄付
- 相続財産または遺贈 ○ 香典返し
- 結婚 出産 還暦祝い等

※日本赤十字社へお寄せいただく活動資金には、住民税や所得税、法人税の控除など税制上の優遇措置が認められております。また国や日本赤十字社の表彰制度もございますので詳しくは広島県支部のホームページをご覧ください。どうか、直接お問合せください。

寄付金付き自動販売機の設置にご協力下さい

コーヒー、ジュースなどお買い上げのたびに、一定額が赤十字の寄付金となります。事業所等での設置についてぜひご検討下さい。



売上金の一部が赤十字への寄付金となります。

設置者様の社会貢献活動としてアピールできます。

設置者様のご負担はございません。

お問合せ先

日本赤十字社広島県支部 組織振興課

電話：082-545-5011
FAX：082-240-2741

Email：soshiki@hiroshima.jrc.or.jp
ホームページ：http://www.hiroshima.jrc.or.jp/